

「未来に何を残しますか？」

わかりやすい藤沢市の 公共施設再整備

目次

プロローグ：公共施設を使う市民の想いと市からの提案

Q1. 再整備って何をするのですか？

Q2. 藤沢市の施設はどれくらいありますか？

Q3. 再整備を進めていく上での課題は何ですか？

Q4. 再整備の基本的な考え方は何ですか？

Q5. 施設が複合化されるとどんなメリットがあるのですか？

Q6. 機能集約・複合化によって発生した空き施設は
どうなるのですか？

Q7. 再整備に市民の意見は反映されますか？

Q8. これまでどんなところを複合化しましたか？

Q9. 今後の再整備の予定はどのようなものがありますか？

エピローグ：未来に向けて

プロローグ：公共施設を使う市民の想いと市からの提案

公共施設※を使う市民の希望

「身近な施設が古くなったから
ピカピカの新品に建て直してほしい！」

市の提案

全部そのまま建て替えるのは難しいです。
将来のために『やりくり』が必要です。
必要な「機能」（サービス）を守るために、
形を変えて生まれ変わらせます。

※公共施設とは
学校、図書館、公民館といった
藤沢市が保有する公共サービスを提供する施設のことをいいます。

Q1. 再整備って何をするのですか？

公共施設の再整備とは、将来の人口や利用状況、財政負担などを踏まえながら、今ある施設をそのまま建て替えるのではなく、必要な機能や規模を見直し、建替え、改修、複合化などを行って、必要なサービスを将来にわたって続けられるようにすることです。

これまでの『建物』の維持

単に老朽化した建物を修繕し、今の形のまま維持していく考え方。

それぞれの施設が独立して存在していました。

これからの『機能』の維持

建物そのものではなく、市民が集い、多世代が交流できるような「機能的で豊かな場」を維持していく考え方への転換です。

Q2. 藤沢市の施設はどれくらいありますか？

(病院、下水道施設を除く)

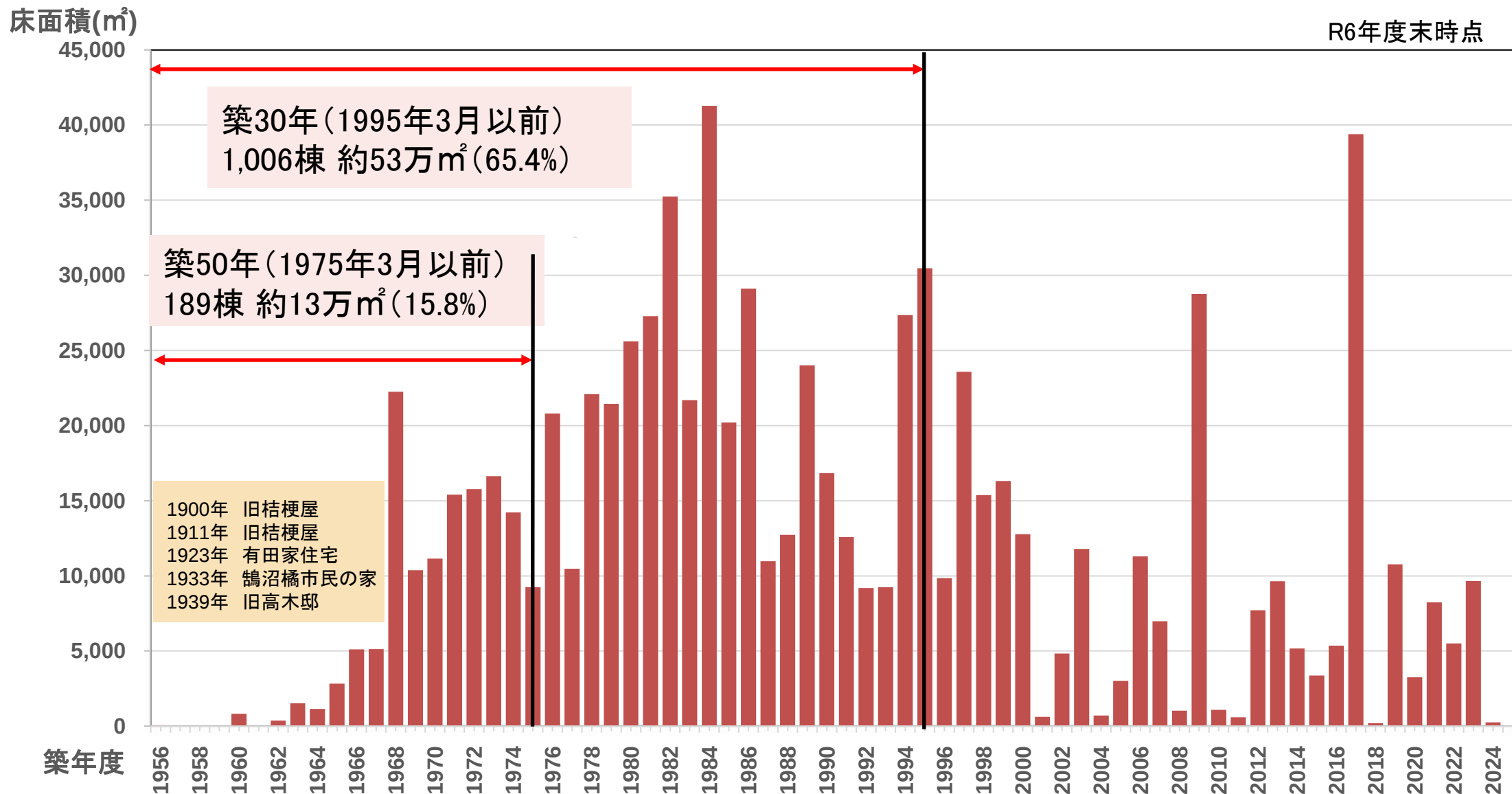
360 施設

1,382 棟

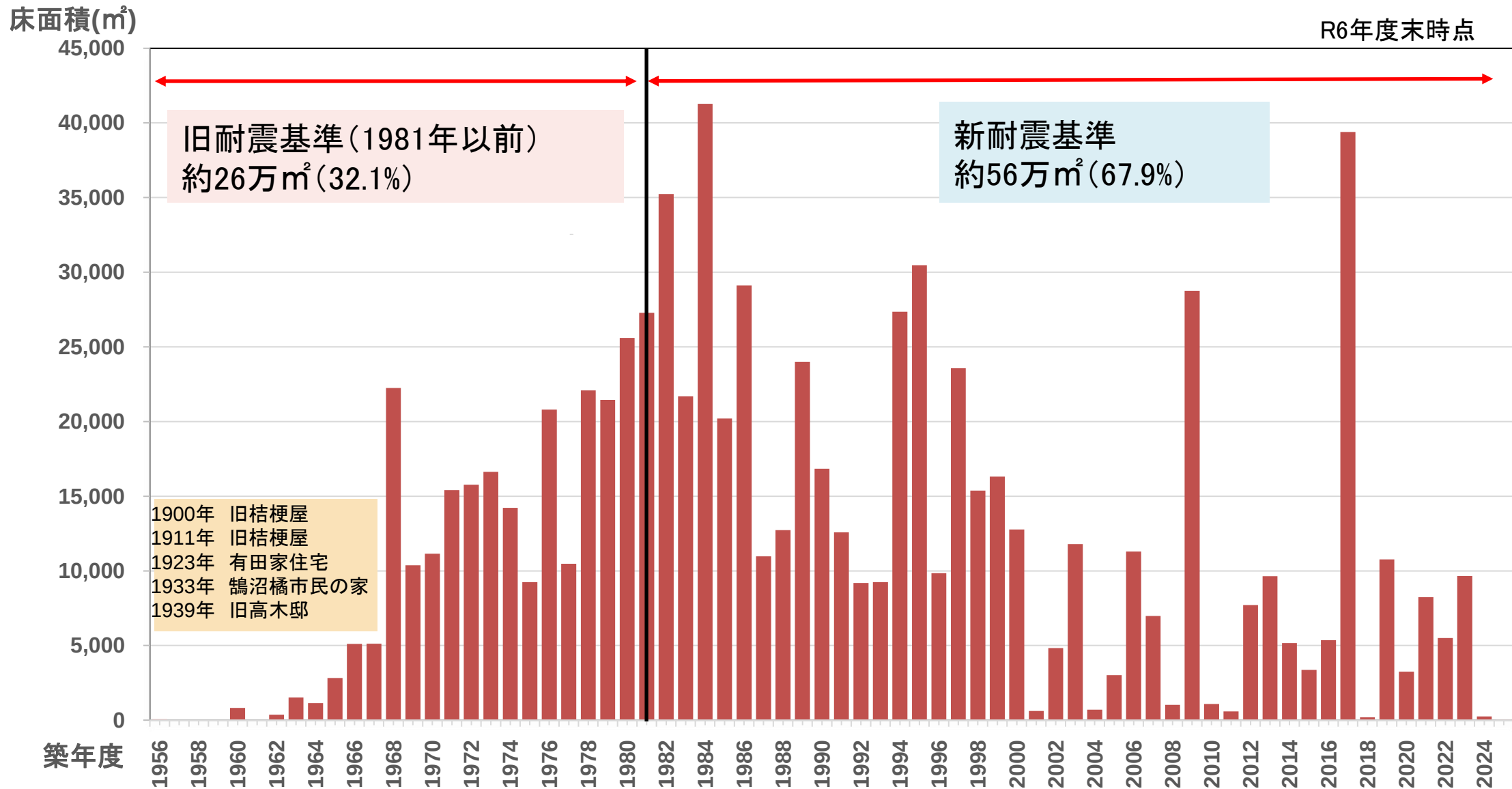
延べ床面積 約 82 万㎡

藤沢市民会館
約 82 個分！

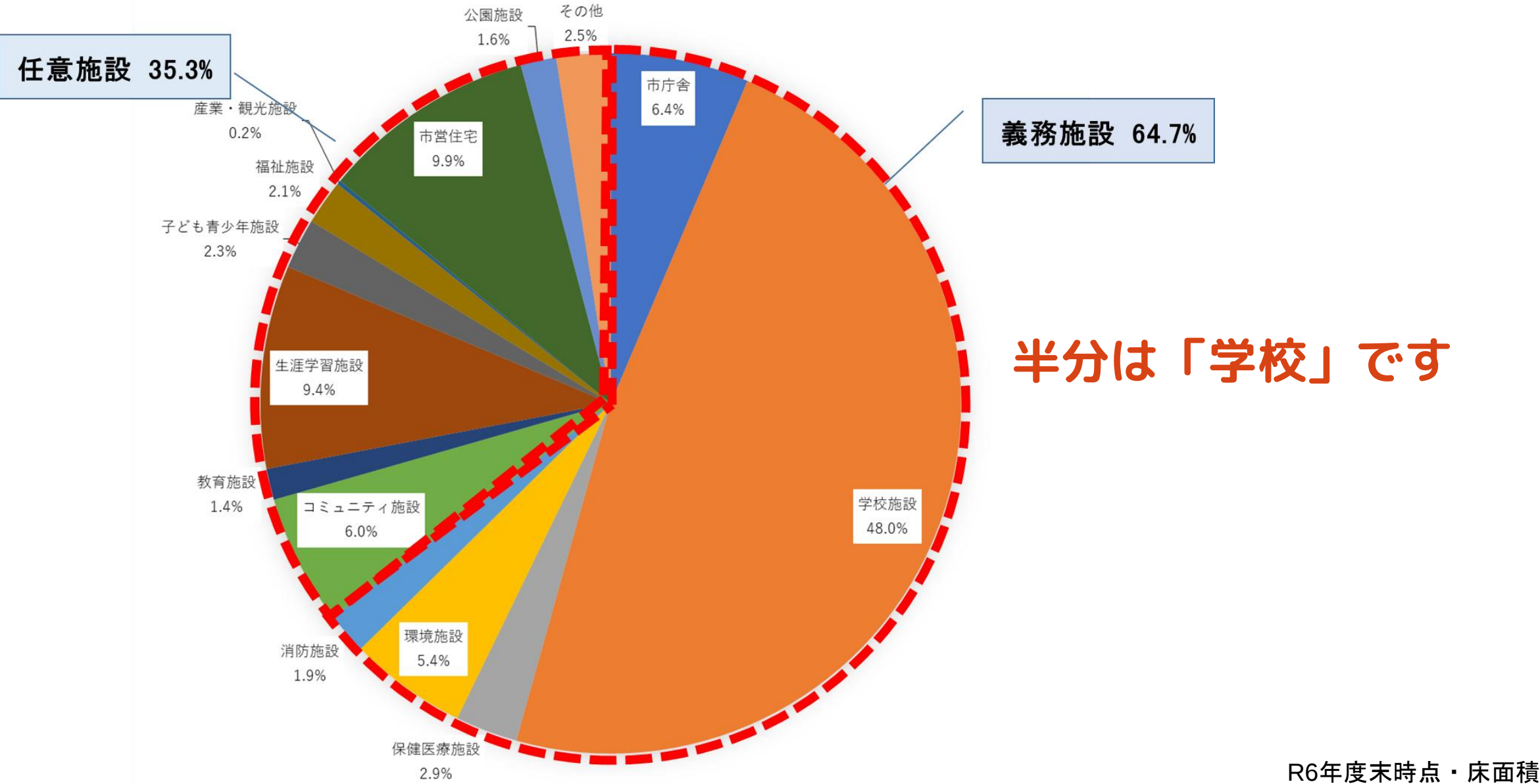
Q2. 藤沢市の施設はどれくらいありますか？



Q2. 藤沢市の施設はどれくらいありますか？



Q2. 藤沢市の施設はどれくらいありますか？



Q3. 再整備を進めていく上での課題は何ですか？

人口問題、老朽化問題、財政問題が重なっていることです。



人口減少の到来

2035年に45.4万人でピークを迎え、その後は人口減少局面に入ると予測されています。



一斉の老朽化

1970～80年代に建設された施設が寿命を迎え、そのまま使い続けることが困難になっています。



財政の圧迫

扶助費（福祉などのお金）が増大する一方、建設予算は減少。一斉更新は不可能な状態です。

Q4. 再整備の基本的な考え方は何ですか？

「藤沢市公共施設再整備基本方針」を定め、公共施設を再整備する際の基本的な考え方として、次の3つに整理しています。



1. 安全性の確保

安心して使える
建替えや耐震化を進め、市民の
皆様が安全・安心に利用できる
施設環境を整備します。



2. 長寿命化

予防保全で長持ち
こまめな点検や手入れにより
施設を長く大切に使います。



3. 施設数縮減

量から質へ
施設の機能集約・複合化などを
行い、今の時代に必要な機能を
備えた施設を整備します。

Q5. 施設が複合化されるとどんなメリットがあるのですか？

「ワンストップ」で用事が済み、多世代が交流できる場になります。

Before (以前の姿)

目的別の移動：図書館、公民館、児童館など、目的ごとに別々の場所へ移動する必要があり、手間がかかりました。

世代の分断：施設が対象年齢ごとに独立しており、多世代の接点がありませんでした。

コストの分散：施設ごとに維持費・光熱費が重複し、非効率な運営でした。

After (再整備後)

ワンストップサービス：一つの場所で様々な用事が済み、移動の手間が無くなります。

多世代交流：子供からお年寄りまで、自然に出会い、交流が生まれます。

効率的な運営：管理コストを抑え、その分をサービス向上に充てられます。

Q6. 機能集約・複合化によって発生した空き施設は どうなるのですか？

空き施設の方向性については以下の4つに分類されます。



公共使用

公共機能として市が別の目的で使用を継続します。



指定活用

市が用途を指定して民間事業者が活用を図ります。



資産売却

資産を売却し、新たな施設整備などの
財源として確保します。



民間活用

公共資産パートナーシップ提案制度に基づき
公民連携による活用を図ります。

Q7. 再整備に市民の意見は反映されますか？



基本計画

事業の方向性や全体像を
まとめます。



設計

具体的な図面等を作成します。



工事

進捗を共有しながら
実際の工事を進めます。

- ・ワークショップや検討委員会、アンケート調査など、施設の用途や規模に応じて適切な市民参画手法の導入を検討します。
- ・意見や要望等を募集する対象は、施設の近隣住民や利用者のほか、広く市民の意見等を聴取するよう努めます。
- ・ホームページやSNS、説明会等により、再整備事業の進捗状況を適宜公表し、市民との情報共有を図ります。

Q8. これまでどんなところを複合化しましたか？

第3次公共施設再整備プランの期間中（令和3～6年度）では次の2つの事例があります。

辻堂市民センターの事例

辻堂市民センターの再整備にあわせて次の施設・機能を複合化しました。

- ・ 南消防署辻堂出張所（第10分団）
- ・ 辻堂西地域包括支援センター
- ・ 辻堂地区ボランティアセンター

【複合化の効果：賃借料の削減】

施設の再編・統合により、これまで民間に支払っていた賃借料を大幅に削減することに成功しました。

環境事業センターの事例

環境事業センターの再整備にあわせて次の施設・機能を複合化しました。

- ・ 南部収集事務所
- ・ 放課後児童クラブ（石川小学校区）

【複合化の効果：施設面積の縮減】

機能の効率化と見直しを図ることで、以前よりも少ない面積で必要な機能を維持するスリム化を実現しました。

Q9. 今後の再整備の予定はどのようなものがありますか？

公共施設の再整備の基本的な考え方

（「公共施設の安全性の確保」、「公共施設の長寿命化」、「公共施設の機能集約・複合化による施設数の縮減」）を掲げた

「藤沢市公共施設再整備基本方針」に基づき、
藤沢市では「公共施設再整備プラン」を策定して、計画的に公共施設の再整備を進めております。

次のページ

第4次（令和7年度～令和10年度） に再整備を進める事業

- ・実施する事業（18事業）
- ・検討する事業（15事業）

Q9. 今後の再整備の予定はどのようなものがありますか？

実施する事業（１８事業）

- ・ OUR Project（生活・文化拠点再整備）
- ・ 村岡市民センター等再整備（第６分団）
- ・ 鵜沼保育園等再整備
- ・ 善行保育園、善行乳児保育園等再整備
- ・ 石名坂環境事業所再整備
- ・ 南消防署本町出張所（第９分団）再整備
- ・ 鵜沼中学校再整備
- ・ 辻堂小学校再整備
- ・ 鵜洋小学校再整備
- ・ 片瀬小学校再整備
- ・ 片瀬山市民の家再整備
- ・ 鵜沼市民センター等再整備
- ・ 藤沢宿歴史的建築物整備（旧桔梗屋）
- ・ 長久保公園みどりの相談所再整備
- ・ 大庭台墓園立体墓地再整備 [特別会計施設]
- ・ 下水道施設再整備 [特別会計施設]
- ・ 学校給食センター整備
- ・ 少年の森再整備

Q9. 今後の再整備の予定はどのようなものがありますか？

検討する事業（15事業）

- ・文化財収蔵庫再整備
- ・老人福祉センターやすらぎ荘再整備
- ・太陽の家再整備
- ・南消防署荻田出張所（第5分団）再整備（自家用給油所等）
- ・北消防署善行出張所再整備
- ・北消防署御所見出張所（第30分団）再整備
- ・明治中学校再整備
- ・藤沢小学校再整備
- ・明治小学校再整備
- ・特別支援学校適正配置整備事業（白浜養護学校過大規模化解消事業）
- ・藤沢聖苑再整備
- ・北部環境事業所1号炉再整備
- ・北部環境事業所し尿処理施設再整備
- ・市営住宅再整備
- ・藤沢市民病院西館等再整備 [特別会計施設]

エピローグ：未来に向けて

孫の代まで安心なまちを残すため

施設の総量を減らし効率化することで、維持管理コストを適正化。

未来の子供たちへの借金の負担を軽減します。

「歳入」と「歳出」のバランスを整え、持続可能な藤沢市を作ります。

みんなで考えよう

藤沢市の公共施設は、みんなの財産です。

未来の子供たちのために、持続可能な

「キュンとするまち。藤沢」

を一緒に作りましょう。

お問い合わせ：藤沢市 企画政策部 企画政策課